(2) 米づくりをはじめた人びと

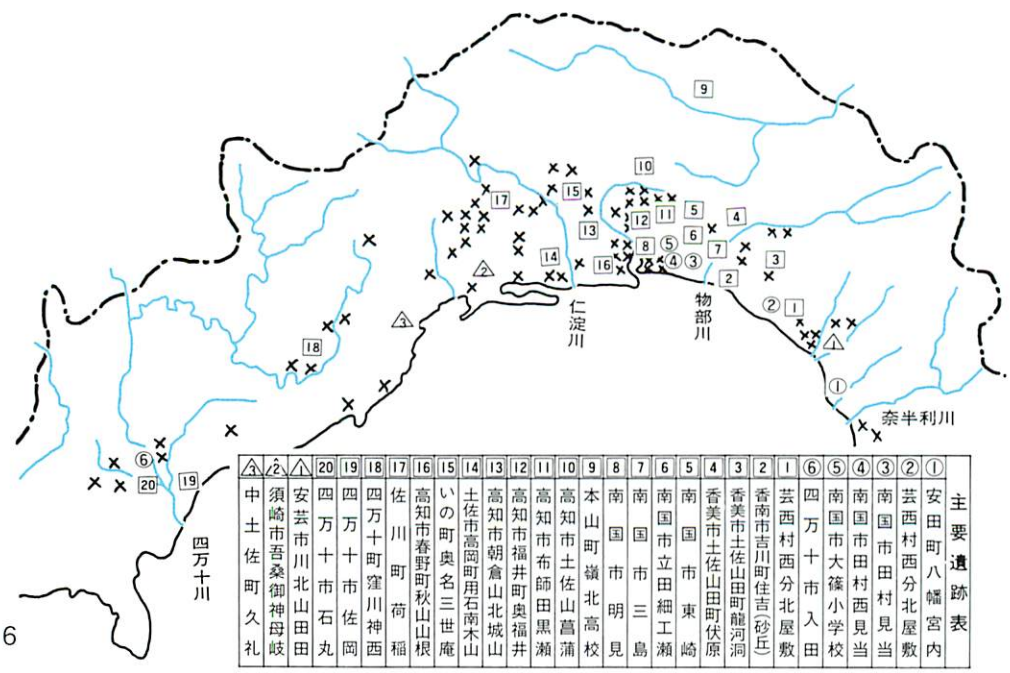
土佐の登呂　今から約2,300年前（紀元前3世紀）ごろ、弥生文化が北九州から東九州へ、さらに豊後水道を渡って幡多地方や高知平野に伝えられました。

弥生時代になると、人々は河川の近くに住みついて、農業を中心にしてくらすようになりました。

南国市田村にある弥生遺跡群は、高知県の稲作農業のはじまりを物語っています。この遺跡は、高知空港の拡張にともなって、1980（昭和55）年から1983（昭和58）年にかけて、大規模な発掘調査が行われ、たくさんの土器、石器、そして環溝の一部などが発見されました。

弥生遺跡分布図

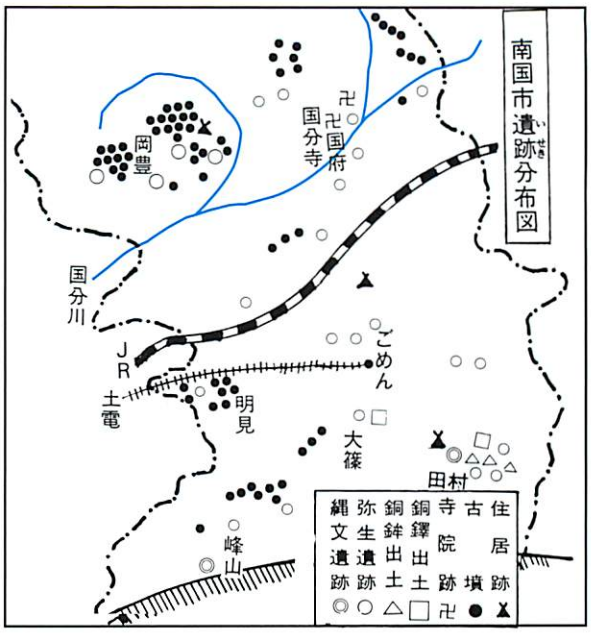
○ 前期遺跡
□ 後期遺跡
△ 石剣出土地
× その他の遺跡



主要遺跡表		
①	安田町八幡宮内	
②	芸西村西分北屋敷	
③	南国市田村見当	
④	南国市田村西見当	
⑤	南国市大篠小学校	
⑥	四万十市入田	
1	芸西村西分北屋敷	
2	香南市吉川町佳吉（砂丘）	
3	香美市土佐山田町龍河洞	
4	香美市土佐山田町伏原	
5	南国市東崎	
6	南国市立田細工瀬	
7	南国市三島	
8	南国市明見	
9	本山町嶺北高校	
10	高知市土佐山菖蒲	
11	高知市布師田黒瀬	
12	高知市福井町奥福井	
13	高知市朝倉山北城山	
14	土佐市高岡町用石南木山	
15	いの町奥名三世庵	
16	高知市春野町秋山山根	
17	佐川町荷稲	
18	四万十町窪川神西	
19	四万十市佐岡	
20	安芸市川北山田田	
△1	中土佐町久礼	
△2	須崎市吾桑御神母岐	

当時は、沼地や泉がたくさんあり、自然の低湿地で、弥生時代の人々は農耕の最適地として、田村の地に住みついたのでしょう。香長平野の中心部は、いわば、「土佐の登呂」です。

田村付近では、銅鉾や銅鐸などの青銅器も発見されています。



南国市遺跡分布図

竪穴住居に住んだ人びと　南国市田村遺跡群で、地表から70cmほど掘り下げたところに、今から約2,200年前（弥生初頭）の竪穴住居跡が発掘されました。この時期の竪穴住居は、全国でも発掘の報告例は少なく、四国では初めてという貴重な遺跡です。

住居跡の大半は直径6m前後の円形をした竪穴住居で、かべの下には、排水のための浅い溝がめぐり、床面には、4～6個の柱穴と中央部には炉跡と思われる1mほどの穴があります。また、すみには、フラスコ状に掘られた大昔の床下収納庫（貯蔵穴）も見られます。

円形の竪穴住居跡

方形の竪穴住居跡

円形の住居跡以外に、一辺が4～5mの方形竪穴住居跡も発掘され、ほかに、高床式倉庫跡なども発見されています。

この田村遺跡の集落に何人位の人々が住んでいたのかはっきりしていませんが、一戸あたり6～10人が住んでいたと考えられるので、かなりの人々が生活していたと思われます。

古代の水田　発掘調査がさらに進むと、弥生時代前期の大規模な水田跡が発見されました。また、この水田で農作業をした弥生人のものと見られる足跡も多く見つかりました。この時期の水田跡の発掘は四国で初めてで、弥生期の生活のしかたを知るうえで貴重な発見とされています。

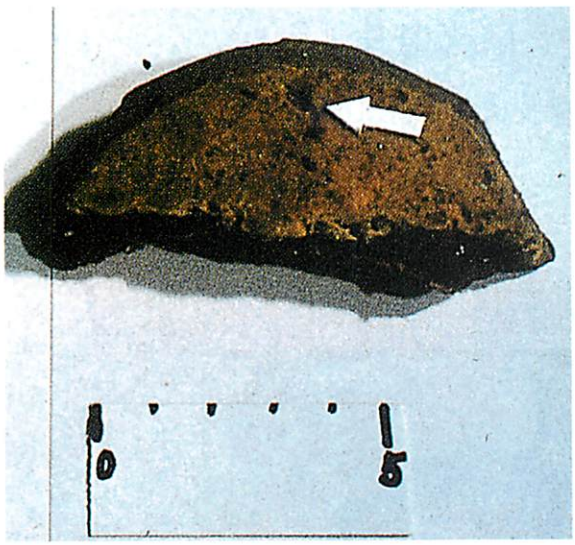
水　田　跡

発見された水田の区画は、4㎡の小規模なもので、幅50～60cm、高さ5～10cmのあぜ道で区切られており、形は正方形、長方形、三角形状とさまざまですが、形のはっきりしない長方形が大半です。

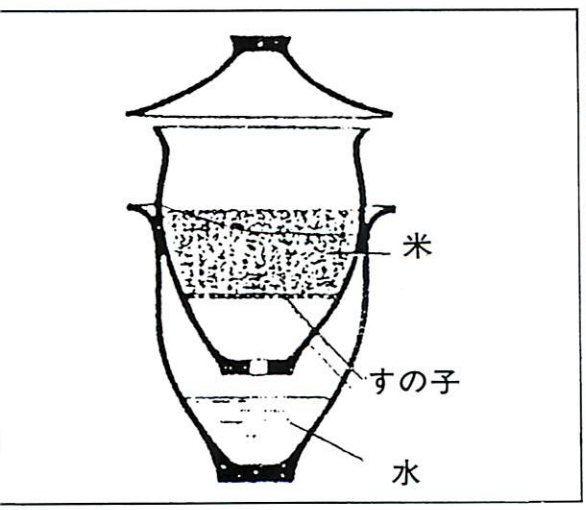
この水田跡からは、稲の穂をちぎりとったと思われる石ぼうちょうや、磨製石鏃（石でつくった矢じり）、糸をつむぐ土製紡錘車（巻きとるのに使う細長い車）、弥生土器のかけらなどが出土しました。

さらに、発見された弥生土器の底部からはもみのあとや炭化した米つぶが見つかり、当時の人々が稲を作り、米食をしていたことが明らかとなりました。米は、ふだんはかめで炊いていましたが、祭りなど特別の時だけむしていたようです。

もみあとのあるつぼ底部



炭　化　米



こしき形土器で米をむす

こしき形土器

弥生人の足跡　約2000年前のものと見られる水田跡から、四国で初めて弥生人の足跡が見つかりました。水田跡の南西部一帯から、60個の足跡が確認されましたが、大半は形がくずれて見分けにくく、完全な形で残っていたのは二つだけです。

長さは、20cmと22.5cm、幅6cmで、広いつま先とよく発達した土ふまずに特徴があり、特に親指部分に力を入れて歩いていたことがうかがわれます。

いずれも粘土層に深さ1cmめりこんで残っており、水が少ないときふみこんだのがそのまま固まり、そのあとに川のはんらんなどがあって、土砂が積み重なったものと考えられています。

足跡の大きさから、当時の弥生人の身長は、男150～156cm、女149～156cmと推定されます。

水田に残っていた足跡